

令和2年 第1回教育委員会会議

1 日 時

令和2年1月31日（金）

開会 13時30分

閉会 13時58分

2 場 所

教育委員会室

3 出席者

田中新太郎教育長、金田清委員、眞鍋知子委員、西川恒明委員、新家久司委員
浅蔵一華委員

4 説明のため出席した職員

新屋長二郎教育参事、臼井晴基教育次長、堀田葉子教育次長、杉中達夫教育次長
塩田憲司教育次長兼学校指導課長、岡崎裕介庶務課長、中村義治教職員課長、
清水茂生涯学習課長、田村彰英文化財課長、村戸徹保健体育課長

5 議案件名及び採決の結果

議案第1号 文化財の県指定について（原案可決）

6 報告案件

令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査における石川県の結果概要につ
いて

7 審議の概要

・開会宣告

田中教育長が開会を告げる。

・質疑要旨

以下のとおり。

議案第1号 文化財の県指定について（田村文化財課長説明）

資料の1ページをご覧ください。議案第1号文化財の県指定についてご説明いたします。

1の提案理由でございますが、先月23日の教育委員会会議で文化財保護審議会に諮問することをお諮りしました文化財1件につきまして、今月29日に開催されました同審議会におきまして「文化財に指定することが適当である」との答申を得ましたので、文化財の指定についてお諮りをするものでございます。

2の根拠法令等は、石川県の文化財保護条例第4条第1項でございます。

3の指定する文化財であります。有形文化財の考古資料「下開発茶臼山9号墳出土品」の1件でございます。文化財の詳細については、資料の2ページをご覧ください。員数、点数ですが1656点、現在保管されている所在地は能美市寺井町の能美市立歴史民俗資料館、所有者は能美市、出土品の年代は古墳時代中期（5世紀）でございます。

指定理由につきましては、3ページに詳細を記載しておりますが、その概要を説明させていただきます。3ページをご覧ください。下開発茶臼山古墳群は、手取川左岸の中流域に広がる辰口丘陵の北西部に立地する古墳時代中期から後期にかけての古墳群であり、その9号墳の埋蔵施設から、昭和63年度から平成元年度にかけて、辰口町教育委員会が実施した発掘調査によって、大量の副葬品が出土いたしました。

2基の埋葬施設からは、祭祀具、装身具、武器、武具、工具等が出土しており、時代は古墳時代中期前半（5世紀前半）に位置付けられております。このうち、武具は三角板革綴短甲、これは三角形の鉄の板を革ひもで結合して作られた鎧でございます。それと、堅矧板革綴衝角付冑、これは縦方向に細長い鉄の板を、革ひもで結合して作られた、正面が突き出た兜でございます。その組み合わせであり、加賀地域では最古の出土例となっております。冑は革綴から鋌留への過渡期の型式を示しており、全国的にも希少なものとされており。また、装身具が大量に出土しており、多種多様な玉類と、県内最多となる堅櫛の出土は特筆されるものでございます。

以上のように、下開発茶臼山9号墳出土品は、加賀地域の古墳時代中期における古墳副葬品として、武具や装身具が卓越するなどの顕著な特長を有しており、当時の政治・社会を考える上で重要な考古資料であることから、文化財に指定することが適当であるとの答申を得たものでございます。

参考資料としまして、4ページには出土品の内訳で二つの埋葬施設でこういったものが出土されたか、合計1656点の内訳を記載しております。

5ページには、出土品の写真です。上段は短甲、兜、剣などの武器・武具です。中段は勾玉や玉類などの装身具、下段は堅櫛でございます。6ページにはこの古墳群の位置図と、その古墳の配置図を添付しております。

1ページにお戻りください。4の指定の日でございますけれども、県公報の告示の日となっております。ご承認が頂ければ、2月12日の県公報において告示したいと考えております。ご審議のほどお願いいたします。

（田中教育長）

審議会の方では、例えばですけれども、二つの埋葬施設があつて、埋葬されていたのが男性と女性なのか、それは分からない。死体がもう全部なくなっていて、着ていた服

も全く残っていないので判別のしようがないけれども、例えば埋葬施設 2 の方は、「武器が出ているので男性かもしれない」と言っています。逆に埋葬施設 1 の方は、「装飾品がたくさん出ているので女性かもしれないのではないか」と審議会の委員からもご質問があったのですけれども、専門家の皆さんからは「いや、それは証拠がないから特定はできません」。夫婦とは言えないし、親子かもしれないし、兄弟かもしれないし、それは分かりません。はっきりとした DNA 鑑定ができるようなものでも出てこない限りは、特定はできません。ただ、夢が、想像が膨らむとか、そういう話が出ていました。

この武具も特徴があって、兜は船のへさきが出ていますよね。それと同じように前を、おでこのここを出してあって、例えば戦闘のときにはぶつけるとかでそれが有利なのです。専門家の皆さんが、いろいろとこれまでの例の中で説明していました。そういう意味では、この武具も非常に特徴がありますし、勾玉とかヒスイとか、こういうものがたくさん出ていますし、もう一つの特徴は、この堅櫛です。写真を見ていたら、この下に竹の櫛の部分が本当に髪を止めたりする部分が全部腐ってなくなって残っていません。これは柄の部分なのですけれども、何で柄の部分が残ったといいますと、漆で塗ってあったからで、だから、ここだけが残りました。これだけの数の櫛が 1 カ所から出たというのはものすごく珍しくて、埋葬された人が使っていたという話ではなくて、これだけのたくさんのもものが一遍にまとまって出たから、多分埋葬の儀式かまじないか何かに使われたのではないか。そんな話をいろいろと専門家の皆さんが審議会のときにも話していきまして、結構石川県としては特徴のある出土品なのだそうです。

【質疑】

(眞鍋委員)

全国的に希少な事例ということなのですけれども、全国から考古学ファンの方が観光に訪れるような、わざわざ見に来るような、そういうものでしょうか。といいますのも、私は能美市の観光戦略をつくる委員を昨年度までやっていまして、なかなか能美市にわざわざ訪れて見に来るというものが少ないということでしたので、そこを解決できるようなものなのかということをお聞きいたします。

(田村文化財課長)

まずこの出土品につきましては、今ほど教育長がお話ししましたように、この一番下のこの櫛、堅櫛ですけれど、一応県内で最多なのですけれども、全国的に見ても学芸員から 2 番目に多いというふうにお聞きしております。それで、今、能美市の方は、現在のこの出土品の保管場所は、歴史民俗資料館にあるのですけれども、今年の秋に新しく博物館がオープンする予定で、その中でこの出土品なり、あるいは能美古墳群の出土品を展示して、能美の誕生コーナーというところで設けて啓発するような展示を考えているそうです。そういったところに施設ができますので、見に来ていただければ、恐らく常設されると思いますので、皆さん楽しんでいただけるのではないかとこのように思っています。

(田中教育長)

そういう意味ではタイミング良く今回県指定になったので。

ただ、今言ったように、この豎櫛が何に使われたかというのは、いろいろな説があって、これが分からないのもまた楽しいのです。

(金田委員)

これは地元の者としては大変うれしく思っています。この間、歴史の番組を見ていたら、この革綴から鉾留というこの兜は、専門家が非常にこういうところに目を持っていくらしく、今資料を見ていましたら、鉾留への過渡期と書いてあったのですが、鉾留は出てきたのですか。

(田中教育長)

ここからは出ていないです。

この後の年代の古墳からは出ているので、ちょうどその過渡期で、その直前の時代で、この後はもうみんなほとんど鉾留で、金属を金属の鉾で留めるという。

(金田委員)

鉾留は出ていないわけですね。

(田中教育長)

ここからはですね。

ただ、能美市にも別の古墳が、後の時代の前方後円墳もあるので、多分そっちらからは出ていますね、課長。鉾留の武具の一部は出ているのではないですか。

(田村文化財課長)

ちょっとそこは確認できていません。

(田中教育長)

専門家ではないので分からないですか。年代が違っていると、出てくるものも違うので。

(金田委員)

ああ、なるほど。だけれども、これが変わるときが大事なのだというような。

(田中教育長)

ここは円墳なので、この後多分前方後円墳などになっていたり、いろいろ変わっていくので。

(金田委員)

いつもお願いしていますように、専門家の皆さんだけのレベルで終わらせないで、ぜひ市民も、一番お願いしたいのは、市教委あたりが頑張っていて、小中学校あたりにこういうものもあるということ、あるいは教育長が言われたように、自分らも歴史に思いをはせるという、そういうところまでやっていただければなというふうに思います。ただ「出た」と、説明しただけで終わるのではなくて。

(田中教育長)

そういう意味では博物館が今秋にオープンするというのはいいいタイミングなので、まさにそこに展示コーナーができて、学芸員が解説もすればという話なので。

(金田委員)

それは大事なことだと思います。

(田中教育長)

いろいろとネットなどで情報発信すれば、多分好きな人は、必ず新しいものが出てきたとかいう話なら来るでしょうし。

(金田委員)

まだ市民は博物館に対するイエスの反応はないですね。能美市の方が市民にも、あるいは市教委あたりを通してやっていただければと思います。

(田中教育長)

福井では少しかういふ発掘例があるのだと思うのですがけれども、この時代のものは、考古学の専門家の委員に言わせると、まだあまり全国的にそんなに大量に発掘が進んでいません。大きな開発がないと発掘調査がまず行われないので、だから、発掘調査が行われた中では珍しい例なのですけれども、多分この時代は福井からこの辺が一つの大きな塊だったはずなので、勢力の中心はもしかしたら福井の方かもしれないと。だから、福井の方にももっと発掘が進むとこれと同じような例は出てくるかもしれないけれども、今のところはさっき言った2例目ぐらいで、全国でこういうものがどんどん発掘調査されているわけではないのです。独自に発掘調査を市町がやろうと思ったら、全部自費でやらないといけないのですけれども、大きな開発工事があると事業者が負担してくれるので、開発する前に必ず発掘調査をしなければいけないことになっていますので、新幹線みたいな事業があると、その新幹線の事業をやる場所は発掘調査が進むということなのです。

そういう意味ではいいものがたくさん出て、特徴のあるものも出たので、博物館の一つの売りにもなるというふうに能美市が期待をしているようです。

(西川委員)

ここだけに限った話ではないですけれども、かなりこの鎧兜も櫛も傷みが激しいので、これからの保存方法は、細心の注意を払っていかなければならないのかなと思います。何か特別なこと、腐食を防止するとか、そういったものは、これは能美市の方かもしれませんけれども、どうされるのですか。

(田村文化財課長)

基本的には出土品は行政の方できちんと保管していかなければならないので、こういった木製品や鉄製品は放っておくと腐食しますので、何らかの保存処理をして保管しております。ですので、能美のこの出土品についても、全てそういう処理はされた後のものです。

(田中教育長)
採決を行う。

(各委員)
異議なし。

報告事項 令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査における石川県の結果概要について（村戸保健体育課長説明）

令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査における本県の結果概要につきまして、ご報告いたします。

7ページをお開き願います。「1 調査の概要」についてですが、本調査は、国が全国的な子どもの体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子どもの体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることを目的に、小学校第5学年、中学校第2学年の全児童生徒を対象として、4月から7月末にかけて、握力、上体起こしなど8種目を調査したものであります。

8ページをご覧ください。「2 調査の結果」の「(1) 実技に関する調査の結果」についてであります。「①種目別の結果」については、本県の平均値は、小学校では、男女とも全ての種目で、全国の平均値を上回り、また、中学校では、男女の持久走を除くそれぞれ8種目で、全国の平均値を上回りました。特に、小学校では、男女の長座体前屈、女子の反復横跳び、立ち幅跳びが、また中学校では、女子の長座体前屈が、平成20年の調査開始以降で、最高の値となっております。

次に「②体力合計点の結果」であります。これは、各調査項目の記録を、1点から10点に得点化した上で、8種目分を合計したものであり、80点が満点になります。本県は、小学校、中学校ともに全国平均を上回り、男女とも全国上位に位置しております。また、昨年度と比べて、全国平均は、小・中学校、男女ともに、昨年度を下回る結果となり、本県でも、過去最高値となった小学校女子以外は、全国平均と同様に昨年度を下回る結果となっております。これについては、国では、スマートフォンなどの使用時間が増加していることや、逆に、子どもたちの運動時間が減少していることなどが影響しているのではないかと分析しております。

9ページをご覧ください。「(2) 学校質問紙調査の結果」の中から、本県が全国上位の結果を維持していることにつながったと思われる特徴的なものについて説明いたします。学校の体育の授業について、昨年度の本調査結果を踏まえて「授業等の工夫・改善を行ったか」という質問に対して、「行った」と回答したのは、小学校では、本県は69.4%、全国は54.8%。中学校では、本県は66.3%、全国は59.3%であり、全国より高い数値となっております。これについては、体力・運動能力調査の結果を踏まえ、各学校独自の体力向上策を全ての公立小・中・高校で実施する「体力アップ1校1プラン」に取り組み、例えば持久力が弱い場合は体育の授業で走る機会を増やしたり、また体の柔軟性が弱い場合は、体育の最初の準備運動の際にストレッチを多く取り入れるなど、体育の授業等の工夫・改善に努めてきたことが、こうした結果につながったものと考えております。この他、クラス単位で長縄跳びやリレー、ボール投げなどの種目に挑戦し、その結果をホームページに登録することにより、リアルタイムに県内のランキングが分かる「スポチャレいしかわ」に取り組み、小学生の運動習慣づくりに努めていることなども、本県が全国上位を維持していることにつながったものと考えております。今後とも、体育の授業改善はもとより、「体力アップ1校1プラン」、「スポチャレいしかわ」の一層の充実や、平成28年度より実施している「体力向上アクションプラン」の実践を通して、児童生徒のさらなる体力向上に努めてまいりたいと考えております。

なお、次の10ページには、調査結果の過去5年間の推移を、参考資料として付けさ

せていただいております。以上で説明を終わります。

(田中教育長)

前年比較でちょっと上がったり下がったりというのは過去もあったので、一回一回それが上がったのは何だ、下がったのは悪かったというのは、対象生徒も違っておられますので、一回一回それを分析、説明するのもあまり意味がないと思うのですけれども、大きな傾向として、若干スマートフォンの使用時間が増えた分、多分運動する時間が減っているの、そういったものが徐々に影響しているのではないかという話でございます。本県は全国上位トップ10をずっと維持しておりますので、特に小学校は非常に運動能力的にはいいですし、体格の面でも過去にも報告しましたけれども、いい結果が続いています。運動の奨励をしていることもありますし、その他にも食生活とかいろいろなものが、いろいろな意味で複合的に影響はしているのだと思いますけれども、運動習慣を付けるための取り組みを、引き続きまた各学校で頑張ってもらおうと思っています。

【質疑】

(西川委員)

先ほど説明がありました「スポチャレいしかわ」は、非常に学校でも好評で、すぐ取り組みに熱を入れてやっているの、ぜひ続けてほしいなということと、以前体育専科の先生の派遣があったと思うのです。私は学校回りをさせてもらって非常に有効だなと、その先生がいるおかげで、あまり運動が得意でない先生がどうすればいいかとすぐ相談できます。そして有効な手立てがその学校の中ですぐ広まっていくというようなことがあるようで、またいろいろな工夫を繰り返しながら、体力向上に努めていただければありがたいなと思います。どうしても得意でない熱心にならない、これは人間としてしょうがないかなと思うのですけれど、一人得意な人がいれば、それに引っ張られて啓発されてやれるのではないかなということは見せてもらっていて思います。

(金田委員)

本県のデータは、学力調査も誇るべきものだと思うのだけれども、私はこの運動能力のデータが非常に学校あるいは児童生徒が頑張っているというようなことであり、非常にうれしいことです。私は一生涯やはりスポーツが好きだとか、今、私は70歳を越してくると分かってくるのですが、やはり若い頃、子どもの頃から、スポーツになじんだり、親しんだり、体を動かすことが嫌でない人は、年を取ってもやはり歩くことから始まることでも嫌がらずにやっているというようなことを考えると、それは非常に大事なことだと思います。スポーツが嫌でない、面白い、汗をかくことが楽しいということ、結果としてスーパースターが出てくれればいいのだけれども、私はこれは石川県としては地道にこれからもやっていただければ、生涯、人生、一生という意味においても、非常に大事なことはないかなと思います。だから、今、西川委員が言われたようなことも含めて、小学校、中学校が、スポーツ嫌いでない、体を動かすことが嫌いでない児童生徒をとというような指導をしていただければありがたいと思います。

(田中教育長)

おっしゃるとおりです。特にスマホ等を抱えているわけですから、運動が好きになっ

てもらわないと困るので、小さいときからやはり好きになるように。

ちょっと脱線しますがけれども、この間、テレビで、全日本のバレーをやっていた益子さんが叱らない大会とって、監督が子どもたちを試合中に叱ってはいけないというルールで大会を全国で順番にやっていくという話を取り上げていました。だから、日頃怒っている顧問の先生も怒ってはいけないという、試合中に失敗したからとって子どもたちを怒ってはいけない、中学校のバレーの大会か何かをテレビでやっています、益子さんが言っていました。象徴的な話でしたが、実は益子さんも全日本に行くぐらい部活なりで頑張りました。でも、楽しくなかった。やらされ感とプレッシャーで嫌いだったと。そんな子どもが出ないように、やはり楽しく、かつ自主的に進んでスポーツをやる、部活も一緒だというようなことを言っていて、今の部活動の見直しに沿ったいい話だなと思いました。ただやればいいという話ではなくて、やはり進んでやる、自主的にやる、そういう気持ちを育てなければいけない。そんな中からトップアスリートが出てくればいい。楽しくないと伸びない。益子さんが自分の経験で、実は苦しくて、叱られて、ひどくて、早く辞めたいという気持ちの方が多かった時期もあったという話をしていて、やはりスポーツはそういう基礎があって、その上に能力がある子が、専門的な指導を受けて、トップアスリートにもなっていく。そういう二重構造でないと、最初からトップアスリートを育成するような部活動をやっても駄目なのだなというのを、この間そのテレビを見ていて、何しろ子どもたちには自主的にやると。一番駄目なのは俺の言うとおりにやれとか、俺の言うとおりの作戦で試合をやれという指導者はもう要らないということを書いていました。

(金田委員)

高校も中学校も部活動の指導者には、今教育長が言われたようなことをぜひとも言っていただきたい。この間同窓会で、学童の事務局をやっている人から聞いたのですが、今、教育長が言われたように学童の監督、コーチを変えなければ駄目だと。今言われたように、叱ってばかりいる、楽しくない学童野球、学童バレーになっているのではないかというようなことを書いていました。スポーツは楽しいということを原点にしてぜひ継続的にやっていただければと思います。

・ 閉会宣言

田中教育長が閉会を告げる。